

## ゴッホ展 巡りゆく日本の夢

北海道立近代美術館 2017.08.26～10.15 東京都美術館 10.24～2018.01.08 京都国立近代美術館 2018.01.20～03.04



「フィンセント・ファン・ゴッホ」(1853～1890)は、19世紀に活躍した絶大な人気を誇った画家で、日本の文献や浮世絵などの影響を受け、日本を理想郷と捉えて憧れを深めていた。

本展は、オランダ「ゴッホ美術館」との共同企画で、「クレラー＝ミュラー美術館」をはじめ世界中の名だたる美術館などが所蔵する、画伯の油

彩画・デッサン・資料により、日本を愛した画伯に加え彼に憧れた日本人という相互関係を通じての魅力を紹介する催事である。

### 《沈む太陽と種播く人（ミレー風）》《夕陽と種まく人》1888年 カンヴァス

大きな樹木を中央に配置した構図で、おとなしい色の大きな太陽は黄色に染まった後方の空に沈む場面で、前方の土壌は青やすみれ色で被われているのは、実際の色とは逆であり実際の畑の黄は青色、空の青は黄色になっている。

### 第1部 「日本に魅了されたファン・ゴッホ」

浮世絵の影響を受けたパリ時代から、アルルを経てパリ郊外で没するまでの作品中心で、日本初公開となる《タラスコンの乗合馬車》油彩カンヴァス（下）や、アルルを描いた《雪景色》など「4点」を初公開している。さらに、「浮世絵」の模写や構図や色彩の表現様式、夢見ていた日本のイメージを反映した「40点」の作品や浮世絵など「50点余」の日本美術作品も合わせて展示されている。



画伯は、はね橋、ジプシーの馬車、ボート、乗合馬車のようなシルエットと色彩に興味を抱いて好んで描いたが、本作品は日向に置き去りにされた休み時間の馬車をモチーフにしているが、乗り合いの人々、車輪の響き、馬のひづめの音が聞こえてきそうな活気を備えている。

### 第2部 「日本人のファン・ゴッホ巡礼」

フランスの「ギメ東洋美術館」に所蔵されている3冊の「芳名録」(240名余)を世界初公開し、佐伯祐三《オーヴェルの教会》、前田寛治《ゴッホの墓》といった巡礼によって描かれた日本近代絵画の名作などが展示されている。

尚、展覧会を併せて10月より映画「ゴッホ最期の手紙」が全国で公開される。